

# 新型コロナウイルス流行期におけるプロ野球の試合観客動員数変化

22011012 有川翼

2020年から新型コロナウイルスによる感染拡大（以降コロナ禍）の影響で不要不急の外出を控えるようになった。その影響はスポーツ界にもおよび、例えばプロ野球の試合では開幕延期・無観客試合となり試合における収入源が大幅に減ることになった。

また、私は小学生の時から野球に携わってきたため野球にはなじみが深くこの事態について、問題意識を持つようになった。

そこで、本研究ではコロナ禍において、プロ野球における観客動員数の動向について調査することを目的とした。それにより、観客動員の向上につながる施策がきているのではないかと考えた。

本研究においては次の3つの種類のデータを5年分収集しそれぞれの関係性を調べる事によりコロナ禍の前後で観客動員と売り上げの動向を把握することにした。利用したデータは以下の通りである。

1つ目は順位のデータで、日本野球機構（以降NPB）の公式サイトから成績記録のうち2018年～2022年のチーム勝敗表より収集した。

2つ目は観客動員数のデータをNPBの公式サイトから統計データのうち2018年～2022年の試合入場者数より収集した。

3つ目は経営面のデータを各球団の公式サイトにおいてIR情報から2018年～2022年の売上と利益の情報を収集した。

目的変数を球団の売り上げと考え、説明変数を順位や観客動員数とし、それらの相関について分析することとした。

分析によって示したい仮説は、「コロナ禍による観客減少」と「観客動員数と売上の相関関係」と「チーム成績と観客動員数・売上の相関関係」である。

1つ目の「コロナ禍による観客減少」では、コロナ禍により、プロ野球の観客動員数が大幅に減少した可能性があり、この減少は無観客試合や入場者制限を行った2020年、2021年に顕著に見られたかどうかを確認する。

2つ目の「観客動員数と売上の相関関係」については、通常は、観客動員数と球団の売り上げは正の相関があると考えられる。つまり、観客動員数が多ければ多いほど、チケット販売やグッズ販売等からの売り上げも増加する可能性があるため、そのことについて確認する。

3つ目の「チーム成績と観客動員数・売上の相関関係」については、チームの順位が高いほど観客動員数が増え、逆に順位が低いと観客動員数が減るという仮説を立てることができる。順位が高いと、試合への興味や期待感が高まり観客動員数が増加する可能性がある。また、順位が高ければ高いほど、球団の売り上げも増加すると思われる。これは、高い順位の球団がファンや観客からの関心を引きつけやすく、チケットやグッズの販売が増えると考えられるからである。

以上のことより、今後観客動員数の新たな発展を目指すために、球団が新たな収入源を探求することや、観客を引きつける新しい施策を導入した可能性がある。これらの施策が売り上げにどの程度影響を及ぼしているかを分析すると、コロナ禍の影響を軽減する戦略が見えてくるかもしれない。